

クラス	TU101	担当教員	赤石 憲昭
テーマ	現代社会における人間と承認		
著書・論文 研究課題等	<p>「ヘーゲルの主体的真理：ヘーゲルにおける「概念」の人間論的解釈」 『一橋研究』第32巻第4号（通巻第158号）、2008年</p> <p>「ヘーゲルのジェンダー論をどう読むか？：ヘーゲルの男女観に関する一考察」 木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会：男性史・軍隊・セクシュアリティ』旬報社、2010年</p> <p>「ホネットの批判的社会理論の批判性：現代における労働と承認の問題圏」 『情況』（特集：ドイツ現代思想の行方）11・12月号、情況出版、2007年</p> <p>「希望はテロ」の背後にあるもの：秋葉原事件の承認論的考察」 『リプレーザ』第7号、社会評論社、2008年</p> <p>研究課題：「人間のあるべき姿」の探求（ヘーゲル哲学、批判的社会理論、ジェンダー論）</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：承認、正義、ケア、平等、ジェンダー			
<p>【目的と内容】</p> <p>人間にとって、「承認」（認めること／認められること）は、非常に重要な意味を持っています。すでに発達心理学において、子どもの認知能力の獲得に先だって、準拠する人物への感情的な承認が必要であることが明らかにされており、また、子どもの養育過程において、養育者による愛情とケアが重要であることは周知の通りです。このような愛情の承認にくわえて、法権利（人権）がきちんと承認されること、さらには、社会において自らの存在意義が認められることも、人間が人間らしく生きていく上で欠かせない条件です。本ゼミでは、この「承認」を一つの主要な切り口として、人間らしい発達のあり方および人間らしい生き方について考え、理解を深めることを目的とします。</p> <p>現実を見渡してみると、あるべき承認を得られず、苦しむ人々が数多く存在します。愛情を注がれるどころか、児童虐待やDV、ストーカー被害の件数は年々増え続け、家族を形成できない未婚化の問題も深刻になっています。人権についても、いじめは一向になくならず、自殺をしてしまう子どもも後を絶ちません。学校や教育委員会の是が非でもいじめの存在を認めないような姿勢も問題となりました。また、社会的価値評価を求めるからこそ、劣悪な労働環境でも無理をして働き続け、身体ばかりか、心を病む人が非常に増えています。同じ人間であっても、社会の標準から外れているとされた人（非正規労働者、同性愛者、シングルマザー等）は、法的、経済的、そして社会的にも不利な境遇に置かれることとなります。「承認」の原理的考察はもちろんのこと、社会におけるその具体的諸相にも注目する必要があります。現実には起こっているこのような非承認の中には、個人の努力だけではどうにもできない、社会や国家と深く結びついた問題もあるため、現実を単に肯定的に捉えるのではなく、それらを批判的に検討することが必要になる場合もあります。人間が人間らしく発達し、お互いが配慮し承認し合うことができるような、正しく平等な社会・国家のしくみ・あり方についても考察を進めていきます。</p> <p>【方法と授業計画】</p> <p>ゼミは、文献講読と個人（班）報告を組み合わせます。</p> <p>「文献講読」では、参加者全員が問題意識を共有できる一般的な内容を持つ文献を共通テキストとして、毎回、テキストの該当箇所について中心に報告を行う担当者（個人単位か班）を決め、その報告をもとに、テキストそのものの内容理解を深めるとともに、それを具体的現実や自分自身のあり方と積極的に結びつけながら考え、議論します。初めの数回は、承認論関連の文献を読み、参加者全員にその基本を習得してもらいますが、その後は、参加者で次に読む文献を決定します。場合によっては、映画などの映像資料を利用することもあります。</p> <p>「個人（班）報告」では、自分の興味を持った特定のテーマについて各自で調べ、その成果を報告してもらいます。4年次には卒業論文を作成してもらうこととなりますので、3年次は、そのための準備として、自分のテーマを見つけ、関連する文献を探し、ある程度読み、内容をまとめ、論文の構想を立てるところまで目指します。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>上記内容は、さしあたりの提案です。最終的には参加者の皆さんと一緒に確定します。今回テーマに掲げた「承認」は、われわれ人間の様々な場面についてまわるものであり、学問分野的にも、哲学、心理学、精神分析学、教育学、法学、政治学、社会学等、多方面で扱われています。このため、皆さんの興味・関心ともどこかで接点が見いだせるのではないかと思います。私自身の興味・関心は、この「承認」を基礎とした包括的な社会哲学を考えることにあるのですが、「人間」に関わることを研究したい人であれば、誰でも参加を歓迎します。多様な関心を持つ人が集まり、様々な観点から、人間について考え、各々の理解を深めることができればと思います。</p>			